

# セザール・フランクの祈り

早島万紀子

19世紀半ばのフランスでは、革命によって破壊されたオルガンが次々と復興されつつあった。文化的な混沌の中、パリの聖クロティルド教会には名匠カヴァイエ・コルによる“シンフォニック・オルガン”が新設された。オーケストラのように豊かで力強い響きをもつこのオルガンを委ねられたのは、ベルギー生まれのオルガニスト、セザール・フランクだった。カヴァイエ・コルの名器と、当時まったく無名だったフランクとの出会いは、荒廃したフランスに一条の光をもたらす。近代・現代へと続く、香り高いフランス・オルガン楽派が萌芽したのだ。良くも悪くも音楽の大衆化が進み、鳴り物入りが横行した時代、フランクはひたすら真の音楽を追及した。黙々と書き続けられた作品群は無理解な批判にさらされ、生前に喝采を浴びることはなかった。しかし、薄暗いオルガン席で、靈感のおもむくままに即興演奏する彼は至福に満たされていた。フランクが背負った孤高は、やがてフランス音楽史に刻まれ、近代音楽の礎となった。

新宿文化センターのオルガンは、国内初のカヴァイエ・コル型オルガンである。フランクが愛した響きを再現し、その魂の軌跡を追ってみたい。「音楽における聖フランチェスコ」と讃えられたフランクに、私自身の祈りを捧げながら…。

## セザール・フランク

1822年、ベルギーのリエージュ生まれ。リエージュ音楽院で学んだのち、1835年家族とともにパリに移住し、パリ音楽院で作曲、ピアノ、オルガン等を学ぶ。1858年より終生パリの聖クロティルド教会のオルガニストを務める。1872年よりパリ音楽院のオルガン科教授として、ダンディ、ジョーソン、ピエルネ、デュバルク、ヴィエルネ等多くの弟子を育成、彼の音楽と人格に傾倒する“フランキスト”が形成される。1871年フランスに帰化し、国民音楽協会の設立に携わる。大バッハをはじめとするドイツ音楽の影響を受けて、深い精神性のフランス音楽を創造したが、その真価が認められたのは晩年になってから。1890年辻馬車での事故がもとで死去。

## 早島万紀子：新宿文化センター・オルガニスト

東京藝術大学音楽学部オルガン専攻を卒業。1977年フランスに渡り、フランスオルガン界の重鎮のミシェル・シャビュイ、アンドレ・イゾワールに師事。長年にわたるフランス滞在中、教会オルガニストを務め、ヨーロッパ各地の歴史的オルガンを訪ねて研鑽を積むかわら、演奏活動を始める。帰国後は、東京藝術大学等で後進の指導にあたりながら、主にフランスオルガン音楽の普及に力を注いできた。日本を代表するオルガニストとして古典から現代に至る幅広いレパートリーに取り組み、その色彩感あふれる演奏は国内外で高く評価されている。1991年、新宿文化センターに大オルガンが設置されて以来、専属オルガニストを務めている。

## 演奏曲目：祈り Prière

アンダンティーノ Andantino

交響的大作品 Grande pièce symphonique

幻想曲 ハ長調 Fantaisie en ut majeur

コラール第一番 ホ長調 Choral I en mi majeur ほか

**チケット料金(全自由席)：一般 2,000円 新宿区民割引 1,000円**

※新宿区民割引チケットを窓口でご購入の際は、住所のわかる公的機関発行の証明書をお持ちください。  
証明書1通につき、4枚までご購入することができます。

## チケット販売：7月6日(金)一斉発売

- (1)窓口販売 新宿文化センター (9時～19時)  
新宿コズミックセンター (9時～19時)  
新宿歴史博物館 (9時30分～17時)  
※休館日を除く
- (2)電話予約(9時～19時)文化センターのみの受付  
TEL:03-3350-1141 ※休館日(第3火曜)を除く
- (3)インターネット予約(10時～)  
<http://www.regasu-shinjuku.or.jp>

※車椅子席は、1階ホール内最後部座席を取り外してのご利用となります。詳細は新宿文化センター(03-3350-1141)へお問い合わせください。

## 【交通】

- 都営大江戸線・東京メトロ副都心線  
『東新宿駅』A3出口より徒歩3分
- 東京メトロ丸の内線・副都心線  
『新宿三丁目駅』E1出口より徒歩6分
- 都営新宿線  
『新宿三丁目駅』C7出口より徒歩6分
- JR・小田急線・京王線・西武新宿線  
『新宿駅』より徒歩13分

## 【お問合せ】

新宿文化センター 新宿区新宿6-14-1  
TEL:03-3350-1141

